

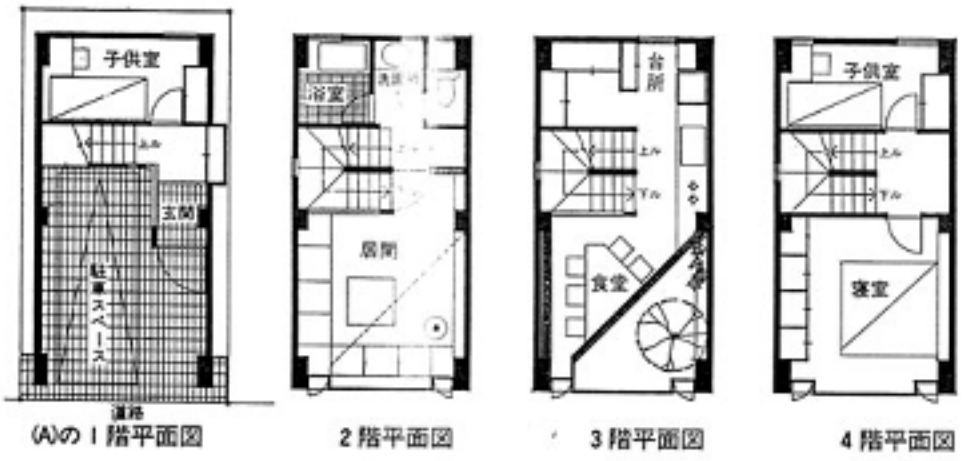
実例から学ぶ 都市型住宅

図・文/本多和夫

日照・通風・採光を得ながらプライバシーや火災・災害も守れるという都市型住宅の手法があります。
採光+通風を得る方法としては、トップライト、ライトコート、コートハウス、ドライエリアなどがあります。緑や土、水を取り入れる方法として、ライトコート、ドライエリア、屋上利用など、広がりや部屋数を増やすには、中庭・通り庭、坪庭・吹抜け・地下・小屋裏・多層型などがありそれぞれ手法を組み合わせて自分のスタイルに合った間取をつくっていきます。



(A)の外観バース



都市の魅力としての文化性・利便性を享受し住み手の投影としての個性豊かなデザインで現代都市環境を創作しながら街並をつくって行くことが可能です。

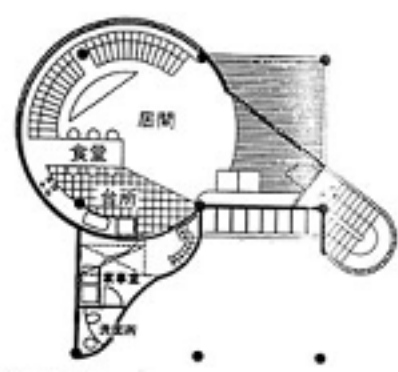
(A) 多層プラン

近隣商業地域の容積率30%地区にRC造の4階建てとして計画された住宅です。敷地は10坪と狭小ですが住宅の機能を満足させて快適な空間にしています。

狭さを感じさせないで快適な空間にする手法として2階の居間と3階の台所、食堂に吹抜けをつくり上下の部屋が一体化するようにしてあります。また階段も部屋と一連となったように広がりを得るために、壁はガラス張りとしてあります。

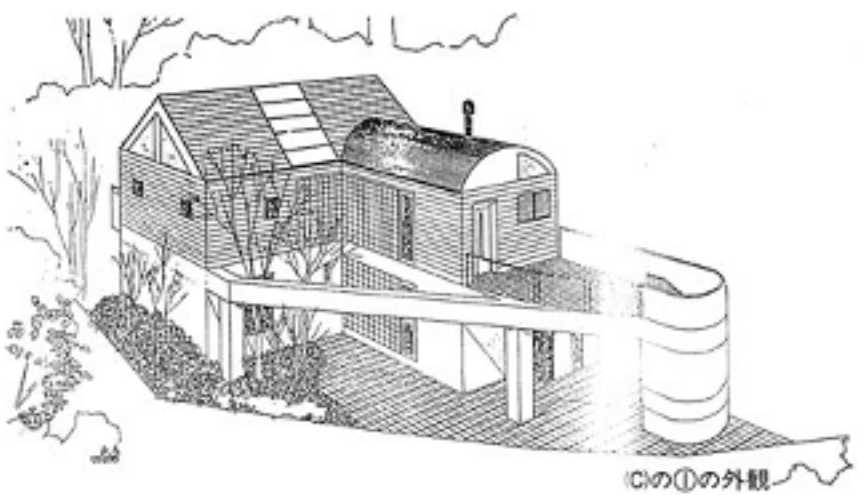
(B) 屋上庭園+ロティ

住宅地に建つRC造2階建ての住宅です。1階に水回りと寝室・子供室・2階に居間・食堂・台所を設けています。居間は1階のルーフトラスに面しており床の仕上げを同一のフローリングとして一体感のある空間になっています。



(B)の2階平面図

北側にルーフトラスがあり、増築スペースになるようになっています。



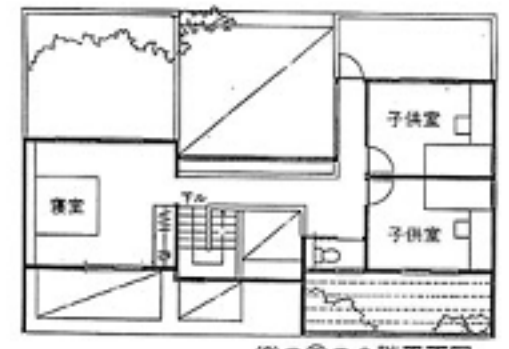
(C)の①の外観

土地の有効利用として屋上を使う方法と1階の全てか一部を開放して柱だけの空間として土地の空地部分を増す方法です。3階建てが建つ所では1階を全てピロティにして公開空地とすることも可能ですが、2階建ての場合は駐車場や玄関ポーチやサービスマードとして利用されます。

(1)の例(RC造2階建て)では、1・2階にある出入り口のための屋外階段を含むピロティとなっています。下は玄関ポーチ、車庫、階段入口、上は勝手口、ルーフトラス、バーベキューコーナーなどに活用できるものとしてあります。

(2)1階がRC造で2階は木造の混構造による住宅です。ピロティ部分は駐車場、ポーチとなっています。南側に中央の柱から柱までの中庭が設けてあり玄関のガラス越しに外部と一体感が出て、両横にある居間・食堂に広く緑を室内に充分に取り入れています。また、2階は南

(C) ロティ



(C)の②の2階平面図



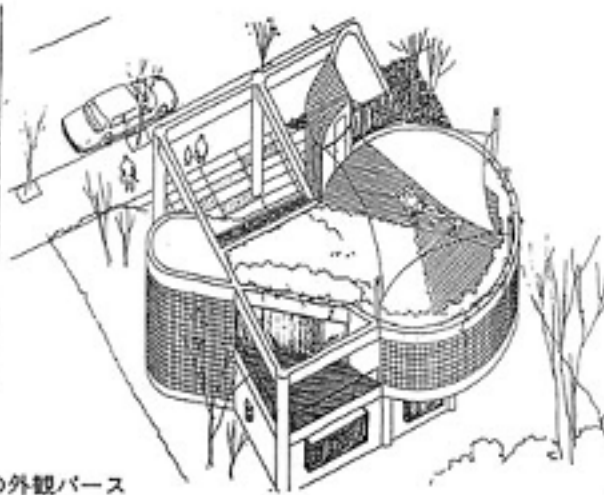
(C)の②の1階平面図



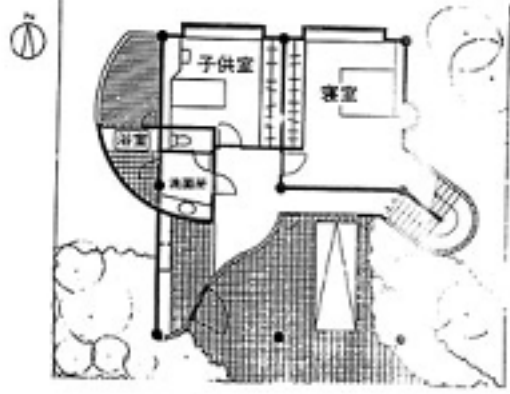
(C)の②の外観バース

また、屋上は緑のいっぱいあるデッキとあって、下の家事室から階段でつながり、洗濯干場や大工作業、日光浴や天体観測、ジャグジーなどを設けてアスレチックも可能です。

1・2階ともピロティになっている場所は、1階は駐車場として2階は将来の増築に対応できるものとして考えられています。



(B)の外観バース



(B)の1階平面図

「コートハウス」

●建築用語辞典

コートハウスは、古代のアラビア、エジプト地方やローマなどの南欧、中国などに発達した住宅の形態で、中庭型住宅をいいます。熱風など自然の角感を防止したり、外敵を防ぐ目的などから、壁や建物を周囲にめぐらして、囲いの中に草花や噴水などの自然を取り入れたものが多く見られます。

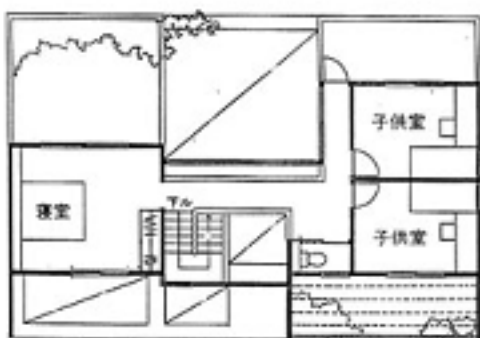
京都の町屋に見られる、建て込んだ建物の中に中庭・光庭・坪庭などいたるところに庭を切りこんだ住宅は、コートハウスのものに見えますが、これも狭い敷地の中に自然を取り入れようとする日本的な工夫であったといえます。

現代の日本では、地価の高騰などによる狭小な敷地と、隣地に囲まれてプライバシーの保ち難い状況、高層建築によって景色のみか太陽の光や風さえも遮られてしまうような環境など、住居空間は以前よりずっと悪化してきています。このような状態の中では、敷地を外部と遮断して壁や扉で囲み、その内側に自然に溢れたプライベートな庭をつくるコートハウスは、個人の憩いの場としての住空間を得るためには有効な手段であるといえます。また、狭い敷地いっばいに建物を配置せざるをえない状況においては、京都の町屋のように建物の周囲に坪庭的な「切りこみ」を入れて、通風や採光を確保するという形も、自然を住まいに取り入れるための適当な解決法といえます。

土地の有効利用として屋上を使う方法と1階の全てか一部を開放して柱だけの空間として土地の空地部分を増す方法です。3階建てが建つ所では1階を全てピロティにして公園空地とすることも可能ですが、2階建ての場合は駐車場や玄関ポーチやサービスマードとして利用されます。

(1)の例(RC造2階建て)では、1・2階にある出入り口のための屋外階段を含むピロティとなっています。下は玄関ポーチ、車庫、階段入口、上は勝手口、ルーフトラス、パーベキューコーナーなどに活用できるものとしてあります。

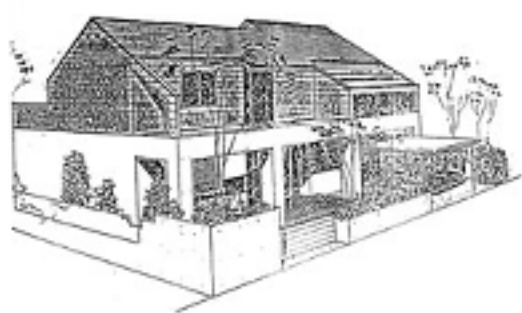
(2)1階がRC造で2階は木造の混構造による住宅です。ピロティ部分は駐車場、ポーチとなっています。南側に中央の柱から柱までの中庭が設けてあり玄関のガラス越しに外部と一体感が出て、両横にある居間・食堂に広く緑を室内に充分に取り入れています。また、2階は南



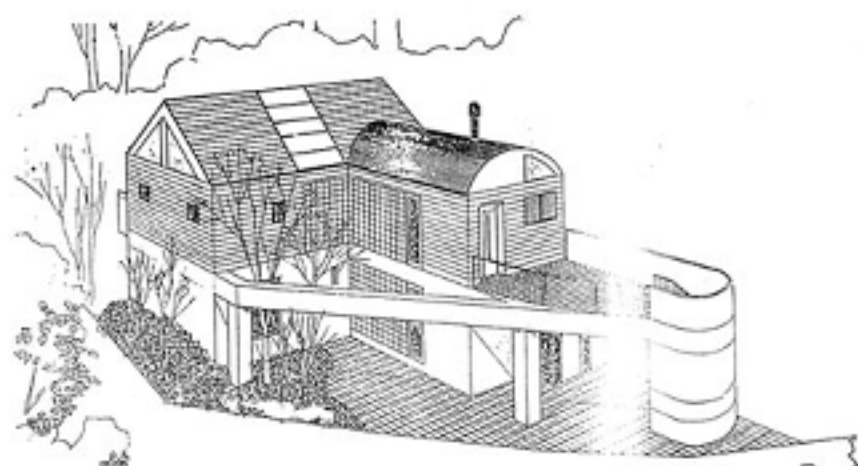
(C)の②の2階平面図



(C)の②の1階平面図



(C)の②の外観パース



(C)の①の外観

北側にルーフトラスがあり、増築スペースになるようになっています。

●建築用語辞典

「コートハウス」

コートハウスは、古代のアラビア、エジプト地方やローマなどの南欧、中国などに発達した住宅の形態で、中庭型住宅をいいます。熱風など自然の脅威を防止したり、外敵を防ぐ目的などから、壁や建物を周囲にめぐらして、囲いの中に草花や噴水などの自然を取り入れたものが多く見られます。京都の町屋に見られる、建て込んだ建物の中に中庭・光庭・坪庭などいたるところに庭を切りこんだ住宅は、コートハウスのものに見えますが、これも狭い敷地の中に自然を取り入れようとする日本的工夫であったといえます。現代の日本では、地価の高騰などによる狭小な敷地と、隣地に囲まれてプライバシーの保ち難い状況、高層建築によって景色のみか太陽の光や風さえも遮られてしまうような環境など、住居空間は以前よりずっと悪化してきています。このような状態の中では、敷地を外部と遮断して壁や塀で囲み、その内側に自然に溢れたプライベートな庭をつくるコートハウスは、個人の憩いの場としての住空間を得るためには有効な手段であるといえます。また、狭い敷地いっばいに建物を配置せざるをえない状況においては、京都の町屋のように建物の周囲に坪庭的な「切りこみ」を入れて、通風や採光を確保するという形も、自然を住まいに取り入れるための適当な解決法といえます。